



若鷹だより

高山市立荘川中学校
平成29年6月

縦割りの力（人は立場や環境で変わる）

校長 岡本 昌昭

荘川の良さの中に“縦割りの力”があります。大きな学校だと掃除・給食当番が学級単位ですが、荘川では小学校も中学校も、全校縦割りの仲間で活動がなされています。地域では、当然、年齢の違う方々（大人）が、協力して地域行事等を支えています。その中に子どもたちが参加して、みんなで協力して活動する良さを味わい育てていただいています。

そして、中学校では委員会活動に加えて部活動も縦の仲間で行っています。さらに、年に数回、互いの授業を参観し合う取組も行っています。それらによって、上の学年から学び影響を受け、絆も強くなってきていると思います。これらが、これまで受け継がれてきて、“縦割りの力”となっているのだと思います。

1, 2年生が最上級生の3年生に憧れを抱き、“なりたい自分”を描いているのです。今では、小学生も、です。特に、6年生が・・・。

3年前に荘川中学校に赴任させていただき、その当時の8人の3年生の素晴らしさに感心しました。全校が素晴らしいのですが、特に3年生のどの子も、爽やかなあいさつをし、堂々と歌を歌い、自信をもって自分の思いを語り、常に学校のことや全校のことを考えて行動をしていたのです。その年の冬、全校の前で、「3年生の皆さんは、自分たちが主体的に創り上げている授業や合唱に対して、まだ伸びしろはありますか？」と聞くと全員が「はい、あります。」と力強く答え、残りの日々で1, 2年生に姿で示して卒業していきました。それを受け継いだ昨年度の3年生は、1年間でめきめきと成長していきました。それまで、一部の元気な子たちの発表が目立った授業が、どの子も、堂々と自分の考えや思いを発表する姿に。さらに磨きをかけ心に響く合唱を創り上げていく姿に。全校のことを考え、同じ学年の仲間や下級生に注意する姿など、本当に19人一人ひとりが頼もしく育ってくれました。そして、今年度の3年生も、一步一步、前年度の3年生を目指し、それを越えられるように、自覚ある・責任ある言動が見られてきています。

3年生になったという立場、脈々と受け継がれてきている環境から“縦割りの力”が育まれ、3年生を大きく育てていこうとしていると考えます。